

他の専門部会への提案

資料 3

No.	提案先部会 (関係部局)	提案の概要	提案の趣旨など
1	産業・雇用部会 ↓ 観光・交流部会 (観光文化スポーツ部)	秋田美彩館のアンテナショップを有効活用するため、もっと多くの人に見てもらえ、リサーチできる場所にしよう取組を実施すべきではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ いま秋田美彩館で販売しているものは、空港や駅などで販売されているようなお土産がメインで、美彩館周辺に住んでる方たちが買うもののかなと感じている。 ・ レストランでも、例えば、白神酵母のパンにいぶりがっこ入りのクリームチーズを挟んだサンドイッチをランチで提供するなど、カフェのようにして、周辺で働いている方々の意見を気軽に聞ける場であっても良いのではないか。
2	産業・雇用部会 ↓ 農林水産部会 (農林水産部)	海外情勢等が不安定であることから国の食料自給率を上げるため、本県の食料自給率を上げる取組を積極的に実施していく必要があるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍や海外（中国等）の人件費高騰等により国内回帰の流れ。 ・ 高齢者が多い本県においては、農福連携が相性が良いのではないか。 ・ 起業の際も農業に関係する分野（新規就農）が良いのではないか。
3	産業・雇用部会 ↓ 農林水産部会 (農林水産部)	県内回帰、県内定着を促進するため、新規就農（起業）に係る住宅の確保支援も必要ではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外等から移住して新規就農する場合、住むところの確保が難しいと思われるので、その点についての支援があれば良いのではないか。 ・ いま、農業は若い人に人気がある。
4	産業・雇用部会 ↓ 未来創造・地域社会部会 (あきた未来創造部)	県内回帰を促進するため、子供たちに様々な機会を捉えて食事を提供するような取組をモデル的に実施できないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県内回帰を促進するためには「ふるさと」のイメージ向上を図るべき。 ・ 人は満腹になると幸福を感じることから子供たちに満腹になってもらう取組を実施してはどうか。
5	産業・雇用部会 ↓ 未来創造・地域社会部会 (あきた未来創造部)	移住・定着を促進するため、「すべての移住者にやさしい秋田県」となり、すべての年代のサポート・支援を充実させるべきでないか。 また、移住先により定着できるように支援員のような方（お世話係）を配置してはどうか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本県に移住してくる可能性ある人は若年女性だけではない。様々な年代の方に可能性があることから間口を広くしておくべき。
6	観光・交流部会 ↓ 産業・雇用部会 (産業労働部)	D Xの専門家について、デジタル関係のトッププレイヤーによる自由度の高い会議体を作り、最新の技術に係る情報を集約して、D X推進アドバイザーが県内に伝えられる体制づくりができればと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル技術は日進月歩なので、現在の最新の技術を把握した上で、県事業を進めていくことが重要。 ・ デジタル技術はあらゆる産業へ適用できるので、専門家からの様々な事例・情報を得ていくことが必要。 ・ 会議の委員は、例えばYahoo!などのIT企業で、本県に縁のある人物が好ましい。
7	未来創造・地域社会部会 ↓ 産業・雇用部会 (産業労働部)	洋上風力や地熱など、再生可能エネルギーの活用を進めていくためにも、県民がその必要性を理解したり、不安の解消が図られる場が必要なのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 風力発電施設等の設置に対して、不安を持っている県民が多いが、漠然とした想像上の不安と、実際に配慮しなければならぬ不安が混在している。 ・ 県全体で再生可能エネルギーを推進するのであれば、県民の不安を置き去りにせず、秋田の誇るべきところであると理解を得る必要がある。 ・ 変化は受け止めにくいものであるため、県民が安心できるよう、理解してもらおう場、説明する場を設けるべき。
8	教育・人づくり部会 ↓ 基本政策 (企画振興部)	高齢者等のICT活用を進めるため、公民館や自治会館、サービスセンターなどの公共施設に高速Wi-Fiスポットを整備すべきではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者は高速インターネットをバリバリ使うことはないので、自宅に回線をひく必要性は低い。公民館に行くと誰かがいて、聞きながらパソコンを使うことができる。 ・ 子ども達も、自宅にインターネットがあるかもしれないが、何らかのトラブルで使用できないときに、公民館等に行くことでバックアップとしてインターネットを使用できる。 ・ 私達が東京や地方に行つて仕事をする場合、ネットフリー、コンセントフリーな環境を探すのだが、案外ない。こういった環境があると、どんな場所でも仕事ができる。 ・ 環境整備を県全体で進めることで、県民はもちろん、他県民にとっても、秋田は暮らしやすい、秋田は仕事がしやすいと思ってもらえるよになり、Aターンや若者の県内定着につながる。